

献血量・献血者数の推移

図2-2は、平成16年度から29年度までの献血量と献血者数の推移を示しています。平成29年度の献血量は約187万Lであり、献血者数は、200mL全血献血約15万人、400mL全血献血約326万人、成分献血約132万人、合計約473万人でした。

図2-3に平成27年度から29年度までの月別の献血量、図2-4に月別の献血者数の推移を示します。献血量及び献血者数が減少しがちな夏期や冬期においては、国、都道府県及び日本赤十字社は、「愛の血液助け合い運動」(7月)、「はたちの献血」キャンペーン(1~2月)等の広報活動を行い、安定的に血液を確保するよう努めています(図2-5)。

平成17年2月に国内で初めて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)患者が確認されました(47ページ参照)。vCJDは血液により感染する可能性が指摘されたことから、当分間の暫定措置として、昭和55年から平成8年の間に英国に1日以上滞在歴のある方からの献血を制限することを決定し、同年6月より

実施することになりました(現在は1カ月以上の滞在歴に緩和)。これにより、献血者がさらに減少し医療に必要な血液が不足するおそれが生じたため、同年4月に厚生労働大臣を本部長とする献血推進本部を省内に設置し、関係部局一丸となって献血の確保、血液製剤の適正使用等の対策の推進を図るとともに厚生労働大臣自ら街頭での献血者確保のための「緊急アピール」等のはたらきかけを行いました。この結果、平成19年度から献血量が増加し、年間を通して、安定供給に必要な献血量を確保することができました。

平成22年度以降、献血量・献血者数ともに再び減少傾向が続いていますが、医療に必要な血液は確保できています。しかし、今後は若年層の献血者の減少が続くと考えられることから、若年層に対する献血推進活動、季節変動や地域差を考慮した献血の呼びかけを引き続き行います。

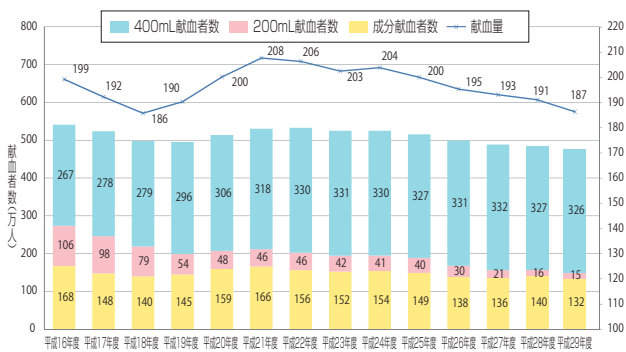


図2-2 献血量及び献血種類別献血者数

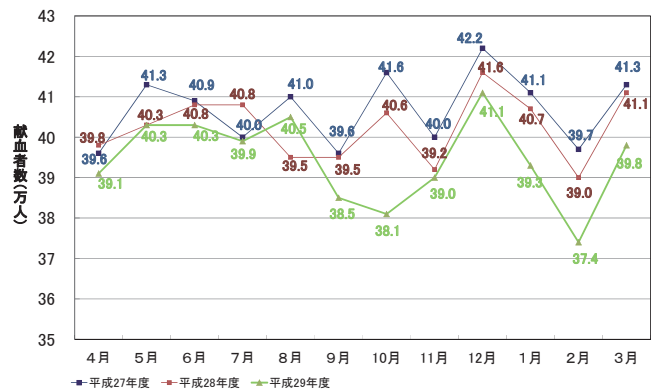


図2-4 月別の献血者数の推移

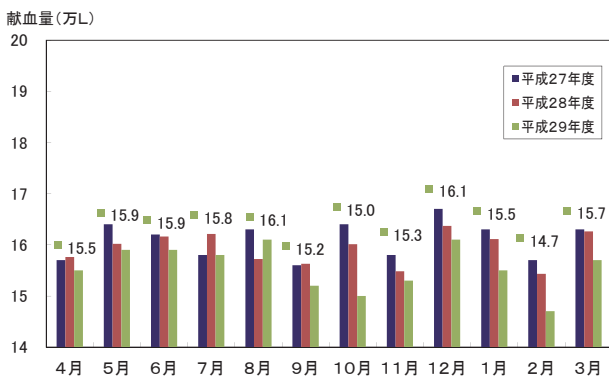


図2-3 月別の献血量の推移



図2-5 ポスター